

令和5年度熊本市歴史まちづくり協議会 議事録

【日 時】令和7年(2025年)2月4日(火) 午前10時~午前11時30分

【場 所】市民会館シアーズホーム夢ホール2階 第7会議室

【出席者】8名出席 ※以下、敬称略

委員 鄭 一止(会長)、田中 尚人(副会長)、大森 洋子、小粥 祐子、小林 寛子、
松崎 範子、舟津 紀明、早川 祐三、宮本 茂史、栗崎 剛

【議題】

- 1 委員紹介、会長及び副会長の選出
- 2 歴まち計画の中間評価について(報告・意見聴取)

【概要】

委員紹介後、会長に鄭委員、副会長に田中委員を互選にて選出。

中間評価について事務局で説明後、意見聴取を行った。委員から出された意見は以下の通り。

歴まち計画全般について

- ・度重なる熊本地震を乗り越えて、市としても頑張っている。歴まち計画は都市デザイン課と、文化政策課が一緒に進めており、公的な機関だからこそできることを楽しんでやっていただきたい。
- ・未指定の建造物等をはじめとした文化的景観の保全を、まちづくりや地方創生のよりどころとして進めており、素晴らしい。

歴史的建造物の保存・活用について

- ・歴史的建造物の保存と活用のバランスをとるために、改修にあたって、ヘリテージマネジャーや関係者による事前協議の場を設けることが望ましい。
- ・歴史的建造物の保存と活用のバランスをとることが市の役割だと思う。その時に施主やヘリテージマネジャーに歩み寄れる知見を積んでいく必要がある。
- ・歴史的建造物や町並みを残し、その歴史的価値を保存し活用していくためには、建造物の調査を行う古建築の専門職を県や市で雇用や育成をする必要がある。
- ・伝統的建造物群保存地区がある自治体には古建築の専門職がいるが、熊本県は伝建地区がないので専門職がない。今後建造物を残していくために、ヘリテージマネジャーの育成も必要だが、長い修理期間の最後まで監理するために、専門職を雇用することを検討していただきたい。

伝統文化を反映した活動の継承について

- ・熊本城があって、その周辺の城下町が周辺地域とどのように結びついていたのか、全て総合的に幅広く見ていただくと、様々なイメージが膨らんでくる。
- ・祭事祭礼を継承している団体は、担い手の不足や資金面の問題など、同じ悩みを抱えている。この協議会をはじめ、各団体ともっとコミュニケーションをとれて、各々が盛り上がっていけるような流れになっていけばいいと思う。

・祭事祭礼は、先人たちが自然に対峙して、五穀豊穡願って生まれた土地土地の行事である。人を呼び込むためにやっていた行事ではないということ踏まえた上で、取り扱っていただきたいということ、その地域の人々が、誇りを持ってその土地に住み続けられるよう手助けをしていただきたい。

歴史的風致を活かした観光振興について

・市の最大の課題が関係課の横串を刺すという問題で、それぞれの課が一生懸命やってらっしゃるのはよく分かるが、同じお金を使うならば、無駄のない形でつくったものを皆さんで利用していただき、他課でもきちんとプロモーションしていくことが必要である。

・熊本城の今の改修中の状態は、非常に珍しい状態で、毎日が新しい発見の連続であってほしいと思う。そのために必要なことは、そこでガイドが専門的な内容だけではなく、面白く説明して、何度訪れても楽しい熊本城というイメージをうまくつくり上げていただきたい。

・県外から見たデスティネーションイメージとして、熊本城しか宣伝されておらず、熊本城下でこれだけ町屋の利活用がなされているが、そのイメージが全く伝わってこない。市全体として、城もあり、町並みも残っており、そしてその活用も行っているというイメージを発信することで、旅行者は熊本城だけでなく、より広域的な楽しみ方ができるようになる。

・歴代の藩主や歴史の中で生まれてきた伝統や行事を含めて、どれほどのすばらしい文化と歴史の上に本市が成り立っているのかということ、城下町の暮らしぶりや街角に残っている歴史的なものも含めて、観光でPRしていかなくてはならない。宿泊税も導入されるので、観光の分野でしっかりお金を稼いで、歴史的建造物の保全と活用をどのように行っていくかを考えていくべきである。

・歴まち計画は地域活性化が一つの目的なので、観光の利益を上手に地域に再配分できるようなシステムを持つことも重要である。ふるさと納税などのシステムを上手に活用して、地域全体に活かせれば、更によくなるのではないか。

歴史的風致の情報発信と認識向上について

・既存のメディアだけを使ってPRするのではなく、新しい媒体も柔軟に活用して、全国もしくは世界にアピールすることも、作戦としてとられてはいかがか。

・これだけの取組をされているので、他の市町村にもこの歴まちの取組が広がるように、宣伝活動あるいはシンポジウム等をやっていただきたい。

・歴まちの各事業は、市と市民とが一緒にまちづくりを行っているので、その姿をぜひ高校生にも伝えていくべきだ。取組の中でもDXやVRを使って、現場に行かなくても学べるコンテンツがあったため、それらを活用して学生が学べる機会を増やして欲しい。

・熊本藩川尻米蔵の展示では、加勢川や緑川を經由して、離れたところからも米が運ばれてきたということが地図に細かく書かれているので、子供たちに教育の中で継承していきたい。

・歴史的建造物を技術的に残していくということもちろん大事であるが、市民レベルでも文化財を見る目を養っていくべきだ。